

# 雨水利用研究の中核

オキナワグラフ  
2005年10月号掲載

## 河地利彦 会長

日本学術会議登録学術団体である日本雨水資源化システム学会が、11月2日、3日に琉球大学の大会会館で第13回の大会を開催する。この学会は平成4年に国際雨水資源化学会(うすいしげんかがっかい)京都会議が開催されたことを契機に、日本での雨水利用の研究の中核を担おうと設立された学会である。そして、第1回大会が平成6年2月に琉球大学で開催されたという沖縄に縁の深い学会でもある。学会会長の京都市立大学大学院教授



河地利彦会長 (京都大学教授)

# 水資源の過不足探刻

### 11月2日から琉大で開催

利用の研究を通して、21世紀の「食糧と水危機」の問題克服に寄与しようというのが学会の目的です」と学会の設立趣旨を語っている。沖縄での12年ぶり2回目の開催となる本大会、今回の大会実行委員長を務める琉球大学農学部吉永安俊(よしなが あんしゅん)教授は、「第一回大会に続いて2度目の沖縄開催です。沖縄は水資源が乏しいので、雨水に対する県民の意識は高いです。沖縄独特の石灰岩土壌や離島などの島の自然環境に適した水利システムの研究も必要です。こ



昨年、愛媛県松山で開かれた雨水資源化システム学会



吉永安俊実行委員長 (琉球大学教授)

の河地利彦(かわち・としひこ)教授は、「水は地球上のあらゆる生命にとって欠くことのできないものであり、他のもので代替することので

## 沖縄の水利システムも研究

ーバルな視野から、水の開発・利用・管理、さらには水環境や水循環のマネジメントの問題について学術的、技術的な研究を行っています。雨水

の大会を機に沖縄の水資源問題への関心がさらに高まり、いろいろな問題の解決への糸口ができればと思っています。」とその抱負を語っている。雨の特性の研究から、河川やダム、溜池、そして水利システムなど、雨水にまつわる研究発表が行われる予定である。4日には海水淡水化施

設などを見学会も予定されているという。なお、この大会は農業土木技術者継続教育(CPD)の認定プログラムにもなっているので、農業土木関連に勤める官公庁や土木・コンサルタンツ会社の方々は、この学会への参加が研修として認められる。雨水利用について興味をもたれる沖縄在住の関係者は、一度出かけてみてはどうだろうか。参加費は資料代を含み5000円。水資源問題に興味のある方の当日参加も歓迎のことである。問い合わせは琉球大学農学部の吉永安俊教授(098-895-8783)または大会事務局担当の井上章二教授(098-895-8790)まで。  
学会のホームページ  
(<http://www.rainhd>)にも詳しい案内があり、オンラインでの参加申し込みも可能である。